

矢口消防署からのお知らせ（8・9月号）



9月9日は、救急の日

救急医療週間 9月8日(日)～9月14日(土)

令和6年度東京消防庁救急標語 **救急車 適切利用で 救える命**

作者 堤 莉渚 (つつみ りな) さん (台東区在学)

救急車ひっ迫アラート ～救急出場の増加をお知らせします～

令和5年中、都内の救急出場件数は過去最多の918,311件でした。
令和6年は、それを更に上回るペースで増えています。東京消防庁では、救急出場が特に増加した場合、ホームページやSNSで「救急車ひっ迫アラート」を発令し、救急車のひっ迫状況をお知らせしています。

「救急車ひっ迫アラート」発令時のように、救急出場が増加した際は、いつもより遠くの救急車が駆けつけることとなり、救急車の到着が遅れる恐れがあります。いつも以上に、体調管理に注意をお願いします。」



みんなが通報するとつながりにくくなります

救急車を呼ぶときは、お一人の電話でかけ続けるようお願いいたします。1つのけがや病気の通報を複数の電話で行うと、受付で同一のものと判断する作業に時間がかかり、他の119番通報を受付できなくなります。

急なけがや体調不良など、救急車を呼ぶか病院へ行くか迷ったら

電話で相談 **#7119**
東京消防庁救急相談センター
こちらからつながります
03-3212-2323 または 042-521-2323

相談医療チームに症状を話すだけで、救急車の必要性を判断してもらえます。救急車が不要な場合は、受診可能な医療機関の案内が受けられます。

ネットでガイド
東京版 救急受診ガイド
東京消防庁ホームページや
公式アプリから利用できます



インターネットで、病気やけがの緊急度、医療機関での受診の必要性、受診する科目などを、いつでも自分のペースで確認できます。

～心構えを育てよう～

9月1日は防災の日

9月1日は、関東大震災が発生した日であるとともに、暦の上では二百十日にあたり、台風シーズンを迎える時期でもあり、また、昭和34年9月26日の「伊勢湾台風」によって、戦後最大の被害を被ったことが契機になって、昭和35年、地震や風水害等に対する心構えを育成するため、防災の日が創設されました。



地震 に対する 10の備え



身の安全の備え

家具類の転倒・落下・移動 防止対策をしておこう

- けがをしたり、避難に支障がないように家具を配置しておく。
- 家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒・落下・移動防止措置をしておく。



けがの防止対策 をしておこう

- 食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておく。
- 停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておく。
- 散乱物でケガをしないようにスリッパやスニーカーなどを身近に準備しておく。



家屋や塀の強度を 確認しておこう

- 家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておく。
- ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないように補強しておく。



初動対応の備え

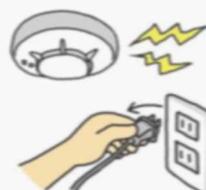
消火の備えを しておこう

火災の発生に備えて消火器の準備や風呂の水のくみ置き（濡れ防止のため子どもだけで浴室に入れないようにする）をしておく。



火災発生の早期発見と 防止対策をしておこう

- 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を設置しておく。
- 普段使用しない電気器具は、差込みプラグをコンセントから抜いておく。
- 電気に起因する火災の発生を抑制するため、感震ブレーカー（分電盤型）などの防災機器を設置しておく。



非常用品を 備えておこう

- 非常用品は、置く場所を決めて準備しておく。
- 冬の寒さなど、季節を考慮した用品を備えておく。
- 車載ジャッキやカーラジオなど、身の周りにあるものの活用を考えておく。
- スマートフォンの予備バッテリー（PSEマーク付）など、必要な電源を確保しておく。



確かな行動の備え

家族で 話し合っておこう

- 地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておく。
- 外出中に家族が帰宅困難になったり、離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めておく。
- 家族で避難場所や避難経路を確認しておく。
- 台風等の風水害が同時期に発生した場合を想定しておく。
- 普段のつき合いを大切にするなど、隣り近所との協力体制を話し合っておく。



地域の危険性を 把握しておこう

- 自治体の防災マップ等で、自分の住む地域の地域危険度を確認しておく。
- 自宅や学校、職場周辺を実際に歩き、災害時の危険箇所や役立つ施設を把握し、自分用の防災マップを作っておく。



防災知識を 身につけておこう

- 新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから、防災に関する情報を収集し、知識を身につけておく。
- 消防署などが実施する講演会や座談会に参加し、過去の地震の教訓を学んでおく。
- 大きな地震の後に同程度の地震が発生する可能性があることを理解しておく。



防災行動力を 高めておこう

日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難要領などを身に付けておく。

